

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
460010	X-13/32-B-2-460010				×	×	×
授業科目	担当教員				×	×	×
2	後期				×	×	×
コ-ポレートファイナンス	白井 健二			【1年次生】国際学部国際文化学科 【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース 【2年次生以上】国際学部国際文化学科 【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1年次生】経営情報学部経営学科 【1年次生】経営情報学部情報システム学科 【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース 【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	選択	3年
					専門	選択	2年
					専門	選択	2年

授業目的

コ-ポレートファイナンスを通して企業価値についての考え方を修得する。仕事の仕組みをシステム的に考え、データ重視した論理的な判断ができる。将来、企業の財務部門、金融機関、自治体などを志望する学生には特に有益な授業内容を目指している。また、コ-ポレートファイナンスを理解するためには確率論を修得する必要がある。併せて、確率論の授業も実施する。

各回毎の授業内容

第 1 回

- 【授】事象と確率（集合、順列、組み合わせ、確率）
- 【前・後】事象と確率の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 2 回

- 【授】離散系確率変数と確率関数
- 【前・後】離散系確率変数と確率関数の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 3 回

- 【授】ベルヌーイ分布
- 【前・後】ベルヌーイ分布の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 4 回

- 【授】二項分布
- 【前・後】二項分布の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 5 回

- 【授】連続系確率変数
- 【前・後】連続系確率変数の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 6 回

- 【授】連続系確率密度関数
- 【前・後】連続系確率密度関数の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 7 回

- 【授】ボアソン分布
- 【前・後】ボアソン分布の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 8 回

- 【授】正規分布（1）
- 【前・後】正規分布（1）の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 9 回

- 【授】正規分布（2）
- 【前・後】正規分布（2）の分布の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 10 回

- 【授】金融工学基礎（将来価値、現在価値、金利）
- 【前・後】将来価値・現在価値の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 11 回

- 【授】コ-ポレートファイナンス（リスクとリターン）
- 【前・後】リスクとリターンの予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 12 回

- 【授】コ-ポレートファイナンス（事業価値の計測）
- 【前・後】事業価値の計測の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 13 回

- 【授】コ-ポレートファイナンス（資金調達と企業価値-1-）
- 【前・後】資金調達と企業価値-1-の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 14 回

- 【授】コ-ポレートファイナンス（資金調達と企業価値-2-）
- 【前・後】資金調達と企業価値-2-の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 15 回

- 【授】コ-ポレートファイナンス（資金調達と企業価値-3-）
- 【前・後】資金調達と企業価値-3-の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

第 16 回

- 【授】定期試験
- 【前・後】小テスト問題および配布資料の予習・復習合わせて4時間を学習すること。

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							60
小テスト・授業内レポート							40
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

課題に対するフィードバックの方法

4回実施する小テストを採点して、解説を行う。その際、平均点を公表してどの内容に理解不足があったかを指摘する。今後の予習・復習の参考とする。

教科書参考書

配布資料

受講に当たっての留意事項

毎回出席を取る。5回以上欠席すると定期試験受験資格がない。

学習到達目標

- ・事象と確率（集合、順列、組み合わせ、確率）を修得する。（定期試験：5%，確認テスト：5%）
- ・離散系確率変数と確率関数（含むベルヌーイ分布、離散系モーメント母関数）の問題を解くことを修得する。（定期試験：5%，確認テスト：5%）
- ・連続系確率変数と確率密度関数（含む指數分布、連続系モーメント母関数と確率変数の変換）の問題を解くことを修得する。（定期試験：20%，確認テスト：10%）
- ・ボアソン分布、大数の法則と中心極限定理および正規分布の理解と問題を解くことを修得する。（定期試験：10%，確認テスト：10%）
- ・金融工学基礎（将来価値、現在価値、金利）とコ-ポレートファイナンスを修得する。（定期試験：20%，確認テスト：10%）

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習